

台風19号 各地での支援活動のご報告と募金のお願い

グリーンコープ共同体

15都県に及ぶ広範囲に甚大な被害をもたらした台風19号は、グリーンコープの産直生産者やお取引先工場にも甚大な被害をもたらしました。

10月14日～11月23日までに集まった支援募金は約3,600万円と、たくさんのご協力をいただいています。本当にありがとうございます。組合員の皆さまから寄せられた支援募金は被害を受けた生産者やお取引先、そして被災された皆さんへの支援に活用させていただきます。

グリーンコープでは引き続き、被害を受けた各地域で支援を行っています。

被害は甚大で、継続した支援が必要です。引き続き、災害支援募金へのご協力をお願いします。

＜産直りんご生産者グループ「ハケタ会」・「信濃五岳会」＞

「ハケタ会」では17名中10名が決壊した千曲川流域（赤沼地域：新幹線が冠水した地域です）に住んでおられます。家屋・りんご園・倉庫・農機具全てが浸水してしまいました。「信濃五岳会」は、決壊した地域と反対側の地域のため家屋や農機具への被害は免れましたが、千曲川沿いにあった生産者の園地（りんご・桃・ネクタリンなど）は全て浸水しました。



福岡から届いた物資を、被災されたハケタ会のメンバーと赤沼地区の方にお集まりいただきお配りしました。

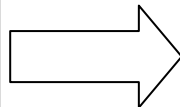
被災後、久しぶりに再会された方々が多くいたようで、「大丈夫だった?」「元気してた?」といった会話が飛び交っていました。

家の泥出しは、ひと段落しましたので、今後はりんご畑の作業をお手伝いしながら、被災された方に少しでも物資をお届けできるように進めていきます。

グリーンコープの組合員、お取引先の皆さま、産直生産者の皆さま、被災地の方から、とても感謝いただいています。本当にありがとうございます。

＜ハケタ会の生産者と支援に行ったメンバーの集合写真＞

千曲川から流れてきた土砂はりんご畑に30cmほど積もっていました。



りんご畑の土砂出しピフォーアフターです。島原自然塾の酒井会長がショベルカーを使って、土砂出しを行いました。少しずつですが園地の土砂出しが進んでいます。引き続き、産直生産者やお取引先からも支援に入っていただいています。

台風19号災害支援募金

申込番号

010

一口200円

011

一口500円

専用申込書に印字しています。数量（口数）を記入ください。

【例】一口200円を数量欄に「2」と申し込まれた場合400円のカンパとして受け付けさせていただきます。

QRコードをスマートフォンのバーコードリーダー等のアプリを使って読み込んでください。グリーンコープ災害支援の内容はInstagram「災害支援 by グリーンコープ」にて日々配信しております。





りんごの木の半分くらいまで浸水しました。上の方は浸かっていませんが、それでも出荷は断念となりました。

＜被害を受けたりんご畑のりんご＞
この間、木の上になっていて泥をかぶっていないりんごを取扱うことができないか、加工用などにすることができないか、などをハケタ会の皆さんと相談を進めてきました。
その後、ハケタ会のメンバーで話し合いがもたれました。
流れてきた泥水には、下水や薬品などが含まれている可能性もあり、ハケタ会として被害を受けたりんご畑からの出荷は全て行わない（廃棄する）こととなりました。
ハケタ会の皆さまからは「被害を受けたりんごを取り扱う検討いただいていることに大変感謝している。必ず来年、美味しいりんごを出荷することを目指して頑張る」とおっしゃっていただきました。
今季のりんごは本当に残念ですが、来年、ハケタ会の皆さんが栽培した美味しいりんごを組合員のもとへお届けできるように支援募金のご協力をお願いします。

＜支援を行ったグリーンコープ職員の感想＞
生産者の皆さんは、グリーンコープに感謝している、本当に有り難いと話されていましたが、私は被害に遭われても屈することなく、現実を受けとめ、来年度のりんご生産に向けて頑張る決意を持たれている生産者の力強さに心を打たれました。
まだまだ被災地は支援が必要な状況です。自分にできることは自分が感じたことを伝えること、そして、りんごを買って食べ続けること。それが生産者の支援に繋がると思っています。来年、真っ赤に綺麗に実ったりんごが手元に届くことが楽しみです。

～引き続き支援を行っていきます～

東日本大震災の被災地でも台風19号、台風21号の被害が発生しています。早期復興が東日本大震災の被災地を応援することに繋がります。

＜岩手県山田町 田の浜地区＞



＜仮設住宅＞



＜支援物資のお届け＞

生活環境が整っていなかった世帯へ布団、靴等を急ぎお届けし、米や即席麺、衣類等を11月29日からお届けしています。又、東日本大震災時に設置されて取壊し前の仮設住宅に入居されている28世帯の方々について、仮設の集会所を活用し、炊出しやサロン活動を行い、困りごとの相談対応を共生地域創造財団スタッフで行っていくようにしています。

＜宮城県丸森町＞

1ヶ月以上が経過した11月20日にやっと道路が開通した地域もあり、ボランティアの方々が入れようになったとのことでした。このような地区が他にもあり、今後も必要な物資支援を現地からのニーズ聞きながら対応していきます。現在、お届けした瓦礫撤去用のガウ袋、トン袋が助かっているとのことでした。
また、丸森たんぽぽこども園も被災し、現在少し離れたひまわりこども園に同居されており、ひまわりこども園は通常の倍の300人規模になっています。保育士の先生方も日々の対応で大変されており、イベント事は殆ど中止されているそうです。そのような状況から、クリスマスプレゼント（グリーンコープのお菓子の詰合せ）をお届けし、子ども達や先生方にも喜んでいただくように準備しています。

＜福島県いわき市＞

＜避難所生活の様子＞

テントでの生活が続いています。



＜炊出しの様子＞



いわき市を流れる新川の支流「宮川」の氾濫で被災した内郷地区に入り、連携するNPO団体が継続して200人規模の避難所（内郷コミュニティセンター）で朝・昼・晩の炊出しを行っています。グリーンコープでは、食材支援を行い炊出しのサポートを行っています。

